

【ポスター発表】

保育所におけるソーシャルワーク機能に関する一考察 —保育士に対するアンケート調査結果から—

○ 東北福祉大学 米山 珠里 (7816)

キーワード：保育ソーシャルワーク、保護者支援、ソーシャルワーク機能

1. 研究目的

現在、少子化や核家族化に加えて社会構造や労働環境の変化は、子どもの家庭環境を大きく変え、子育ての難しさや育児不安を抱える家庭の増加が顕著である。また、養育機能の弱体化が懸念されている他、育児について相談できる相手が身近にいないことや、地域の子育て力の低下が問題視されている。そのような中、保育所は、地域社会における保育専門施設として保護者への相談・助言、及び地域の子育て支援が新たな役割として期待されることとなった。これは、保育士の職務が、相談・助言・情報の発信といったソーシャルワーク機能を用いた援助を行うことが必要とされているといえる。保育ソーシャルワークの重要性が指摘される中、今後、保育実践の中に、ソーシャルワーク機能を位置づけていくことが課題といえるだろう。

本研究においては、保育所における保育士が行う保護者支援、地域支援を保育ソーシャルワークと捉え、その実態を把握すると共に、今後、保育現場で活用が想定されるソーシャルワーク機能について考察することを目的とした。今回の報告では、調査の中から、保護者支援の実態及び保育所におけるソーシャルワークに焦点を当てた調査結果及び、自由記述の分析結果を主として行いたいと考える。

2. 研究の視点および方法

本調査は、青森県弘前市の公立・私立保育所の保育士を対象に行った。弘前市内の認可保育所・保育園（公立5園・私立63園）の中で、90名以上の定員であった17の保育所・園を対象に、郵送調査を行った。調査期間は、2011年6月～11月であり、10園から回答が得られた。有効回答数は87票、有効回答率は51%であった。

調査の内容としては、保育所保育指針第1章の「総則」の保育所の役割の文言の追加された点を参考に、「保護者支援の実態」、「他機関・施設との連携」、「保育所におけるソーシャルワーク」の3つの項目を柱として、調査項目を作成した。

3. 倫理的配慮

本調査にあたっては、プライバシーを遵守する観点から匿名で調査を実施している。また、研究目的以外で調査を利用しないことを依頼文の中に明記し郵送調査を実施した。回

収した調査票は、記号化し、保育所名及び回答者の匿名性が確保されるように留意した。

4. 研究結果

基本属性として、対象者の性別は、男性3名(3.4%)、女性84名(96.6%)であり、取得資格については、「保育士」87名(100.0%)、「幼稚園教諭」15名(17.2%)、「介護福祉士」4名(4.6%)、「児童厚生員」1名(1.1%)であった。また、保護者への支援を積極的に行っているかという問いに対しては、「積極的に行っている」59名(67.8%)であった。積極的に行っていると回答した保育士に対し、どのような支援を意識的に行っているか自由記述で記載してもらった結果51名から回答があった。カテゴリーに整理すると、「情報の共有化」、「保護者からの相談対応・助言」、「他機関との連絡調整」、「受け入れ体制の充実」、「気になる子への保護者対応」、に分けられた。自由記述を基に、保護者支援を意識的に行っている場面を分類してみると、「送迎時」、「連絡帳を活用して」、「個人面談」、「行事」、「保護者会」、「延長保育」などがあげられた。

また、ソーシャルワークが保育現場でどのように活用が可能か自由記述で尋ねたところ、42名から回答があった。カテゴリーに整理すると、「相談・助言に関すること」、「他機関との連絡調整」、「情報提供」、「ネットワークの構築」、「社会資源の開発」、「生活課題の解決」、「保育現場での活用は困難」、に分けられた。

5. 考察

保護者への支援を「積極的に行っている」と回答した保育士は約7割であり、主として情報提供や相談・助言、他機関との調整などを意識的に行っていることが分かる。アンケート自由記述の「意識的に行っている保護者への支援」、及び「ソーシャルワークが保育現場でどのように活用可能か」に記載されていたものを、ソーシャルワーク機能毎に分類してみると「個別相談援助機能」、「調整機能」、「連携機能」、「支援者機能」、「資源開発機能」などがあげられた。

保育ソーシャルワークの必要性が示されている現在、保育ソーシャルワークの機能を各保育所で実践していくことが想定される。今後、保育ソーシャルワークを実践していくにあたり、多くの課題が想定される他、すべてのソーシャルワーク機能を実践させることは難しい実態にある。しかし、ソーシャルワークの機能を少しずつ導入させ、保護者支援の更なる充実や地域の子育て家庭への支援に役立つものにつなげていく必要がある。今回、分類を行ったソーシャルワーク機能は、数ある機能の中でも、今後、保育現場で主に活用されていくことが想定される。今後、保育現場で主として活用されるソーシャルワーク機能の詳細を検討していくことを課題としたい。